

コード No. 18257

**Anti-Rat
GRO/CINC-1 (N) Rabbit IgG Affinity Purify**

容量 : 100 µg

- はじめに : GRO/CINC-1 (growth related oncogene/cytokine-induced neutrophil chemo attractant 1)は元々、IL-1β 刺激されたラット腎臓の上皮細胞(NRK-52E)の培養上清から精製されました。ラット CINC-1 をコードするアミノ酸配列は 1989 年に富山医科薬科大学で渡辺らのグループによって同定されました。CINC-1 はケモカインのアルファ(CXC)サブファミリーに属し、それに加え 3 つのラット CXC ケモカイン(CINC-2α, CINC-2β, CINC-3/MIP-2)も同定されています。CINC-1 タンパク質の配列は 63-67 %が CINC-2α, CINC-2β, CINC-3/MIP-2 と一致しています。また GROα, GROβ および GROγ では、CINC-1 とそれぞれ 68 %, 71 %, 69 %の相同性があります。このことから、ラット CINCs がヒト GROs のカウンターパートであることが示唆されています。
- 免疫抗原 : Rat GRO/CINC-1 の N 端部分合成ペプチド
- 精製方法 : 抗原ペプチドによる特異精製
- 包装形態 : PBS 1.0 mL に溶解したものを凍結乾燥
- 再生方法 : 精製水 1.0 mL 添加(この時濃度は 100 µg/mL となります)
- 保存方法及び安定性 : 2 ~ 8 °C 保存 5 年間安定
溶解後 -20 °C 保存 2 年間安定
- 使用目的及び使用方法 : 免疫組織染色 2~5 µg/mL にて使用可能
ウエスタン・ブロッティング 2~5 µg/mL にて使用可能
好中球の遊走を抑制
中和活性有り 10 µg/mL にて使用可能 (6 nM までを抑制)
(製品番号 18256 との混合により 10 nM を抑制)
- 特異性 : Rat GRO/CINC-2α, Rat GRO/CINC-2β, Rat GRO/CINC-3 と非交差
- 参考文献 : 1. Koike K., Sakamoto Y., Sawada T., Ohmichi M., Kanda Y., Nohara A., Hirota K., Kiyama H., and Miyake A. The production of CINC/gro, a member of the interleukin-8 family, in rat anterior pituitary gland. *Biochem. Biophys. Res. Commun.* (1994) 202, 161-167